



いろは囃子



お待兼ね、人気絶頂の密蔵が恋と喧嘩に花咲かす痛

伏時代劇

市川 崑
根 香子
峰 幸子
菅井 一郎
三井 弘次
羅門 光三郎
沢村 卓子
岸 旗江
大友柳 照隆
大友柳 照隆
大友柳 照隆
大友柳 照隆
大友柳 照隆

アール・バ
ル・シ
エ
ル
1
封
切
目

珠はくま

いろは囃子

「いろは囃子」と同時封切

主演 市川崑 根香子 峰幸子 菅井一郎 三井弘次 羅門光三郎 沢村卓子 岸旗江 大友柳照隆 大友柳照隆 大友柳照隆 大友柳照隆 大友柳照隆

●東京新映社（昭和34年10月30日開始）

山根貞男のお楽しみゼミナール

「いろは囃子」は一九五五年の大映作品で、有名な舞台劇「冬木心中」の映画化である。瀬田六福の原作はこれまでに、一九二四年に市川寛太郎主演で、三〇年に林長二郎主演で、三四年に坂東好太郎主演で、いずれも松竹において映画化されている。

この「いろは囃子」は、市川雷蔵のデビュー二年目、十三本目の出演作に当たる。巨匠溝口健二の「新・平家物語」に主演したばかりで、評価が一段と上昇中であった。大映としては、その勢いに乗って、市川雷蔵をいよいよ長谷川一夫の本格的な後継者として売り出す作戦であったろう。

原作が長谷川一夫が林長二郎時代に演じたものであること、脚本がかつて林長二郎を一躍人気スターにした衣笠貞之助と大塚稔であり、先述の坂東好太郎版の脚本・監督が衣笠貞之助であること。監督の加戸敏はこの当時、長谷川一夫のヒット主演作を何本も手掛けていること。これらすべてが一つの方向を指し示している。

……すつきりと水も滴る若旦那姿と小気味のよいタンカのやくざ姿で、あなたをウットリさせる、お待ちかね雷ちゃんの、恋と喧嘩の颯爽編！

この映画の惹句だが、はじめて「雷ちゃん」という言い方が使われている



ところ、当時の俳優市川雷蔵を取り巻く雰囲気がかえりやう。

やくざ姿と若旦那姿の両方を見せるドラマの仕掛けが、そんな寒気についたりである。やくざ姿の雷蔵はベテラン山根貞子のあはずれ女と想ろになり、若旦那姿の雷蔵は、前年にデビューしたばかりの宝塚出身の新星・峰幸子と清純な恋を賭く。どちらの場合にも似合いのカップルになってしまおうところに、雷蔵の個性がある。

ところで、「いろは囃子」はモノクロ作品で、カワの「珠はくだけず」と二本立てで封切られた。根上淳、若尾文子、菅原謙二、船越英二など、十二大スター。共演を揃った後者のほうが明らかにメイン番組であり、広告でも大きく扱われている。



■キャスト

劇の主人公 市川雷蔵
お貞 山根貞子
お菊 峰幸子
お徳 菅原謙二
お徳の平次郎 三井弘次
お徳の九郎 置門光三郎
お徳 沢村徳子
お徳の平次郎 若木 忍
お徳の九郎 東郷之助
お徳の平次郎 出田重雄
お徳の九郎 五代千太郎
お徳の平次郎 村上実五郎
お徳の九郎 石原謙
お徳の平次郎 大塚 稔
お徳の九郎 金剛 敏子
お徳の平次郎 天野 一郎
お徳の九郎 村田 重子
お徳の平次郎 堀北 幸夫
お徳の九郎 清水 明
お徳の平次郎 沢村 徳子
お徳の九郎 和 田 啓 子

■スタッフ

製作 ● 滝井 敏
企画 ● 滝井 敏三郎
原作 ● 瀬田 六福
脚本 ● 衣笠 貞之助
大塚 稔
監督 ● 加戸 敏
撮影 ● 田村 隆和
音楽 ● 西 橋 順
美術 ● 木田 謙一
監督 ● 関本 健一
録音 ● 池原 幸夫
編集 ● 出田 重雄
特殊撮影 ● 佐野 義雄
装飾 ● 坂谷 隆男
結核 ● 花井 三子
衣裳 ● 長谷川 信子
製作主任 ● 黒田 豊

◎本商品は現在店頭から最良の状態で製作しておりますが、映画公開時より長い年月を経ておりますので、一部商品にはお見苦しい点もございます。あしからずご了承ください。

TN09706

昭和30年度作品

89分・モノクロ